

街道を歩く

中山道：大井宿西一榎ヶ根一深萱



藤村高札場跡

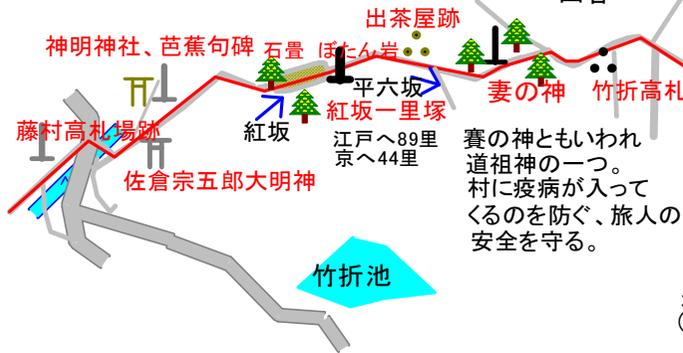
大井宿と大湫宿の中間地点である。大名が休憩する立場本陣、栗おこわ餅などの名物売る茶屋があった。



紅坂一里塚



石畳の大きな石に
ぼたんの花模様が



佐倉宗五郎大明神

元禄年中(1700頃)岩村藩で農民騒動が起きそうになったので竹折村の庄屋が幕府に直訴、その罪で首を刎ねられる。佐倉宗五郎の出来事にていることからこの名がついた。

十三峠

大井宿から大湫宿までの3里は起伏が多く13の峠があり、中山道難所の一つである。東から、西行坂、榎坂、いわい坂、平六坂、紅坂、茶屋坂、新道坂、権現坂、榎木坂、順礼坂、曾根松坂、牛ヶ洞坂、寺坂である。慶長8-9年(1603-4)幕府が大久保石見守長安に開拓させたものである。さらに十三峠におまけ7つと言われ坂の多い道であった。



和宮下向の時は漆塗りの御殿が建てられたという

飛脚連中の架けた橋で馬一頭二文とつたとか

乱れ橋

行列も乱れるほどの急な坂

下街道

下街道

追分の左の道を下ると竹折、釜戸、池田(現多治見)、うつつ峠を経て名古屋に至る。この道は途中うつつ峠の山があるものの土岐川沿いの平地、民家も多く名古屋へは上街道より4里半ほど近い。一般旅行者に加え商人、伊勢神宮参拝者も多く賑わった。しかし、幕府は中山道の宿場保護のためにこの街道の商人荷の通行を禁止し、尾張藩も厳しく取り締まったが徹底することが出来ず幾度も訴訟裁定を繰り返した。

榎が根追分

名古屋、伊勢に行く下街道との分岐。大きな道標が立ち、伊勢屋、中野屋の茶屋、伊勢神宮遙拝所があった。ここは中山道の通行者に加え尾張方面の商人荷、善光寺、伊勢神宮等の参拝者が行き交い付近一帯を挟んで多くの茶屋があり、巻ヶ根茶屋とか榎ヶ根立場と呼んでいた。



榎ヶ根立場、追分跡

西行塚

西行は晩年東大寺の勸進の旅にて奥州、信州を経てこの地に来た三郷の松林庵、東野の竹林庵、永田の梅露庵に住み多くの歌を残し3年後に亡くなり長国寺で葬られた。後に西行を慕う人達によりここに塚が建立された。(墓があるとの説もある)

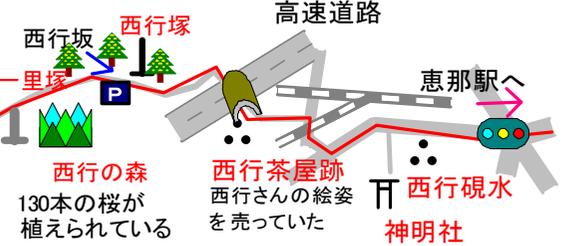
西行の句

”待たれつる入相の鐘音すなり
あすもやあらば聞かむとすらむ”

芭蕉の句

”西行のわらちもかかれ松の露”

西行関係略年表によると建久元年(1190)73歳で河内国弘川寺に寂すとある



西行塚



西行硯水公園